

知覚動考

「誰一人取り残さない 子供が育つ学校づくり」

寒河江市立南部小学校
校長室だより
校長 白田 敏幸

忙しすぎて、刃を研ぐ時間なんかあるもんか！

森の中で、必死に木を切り倒そうとしている人に出会いました。
「何をしていますか？」とあなたは聞く。
すると男は投げやりに答える。
「見ればわかるだろう。この木を切っているんだ。」
「疲れているみたいですね。いつからやっているんですか。」
あなたは大声で尋ねる。
「もう5時間だ。くたくただよ。大変な仕事だ。」
「それなら少し休んで、のこぎりの刃を研いだらどうですか？そうすれば、もっとはかどりますよ。」
とあなたは助言する。
すると男は吐き出すように言う。
「切るのに忙しくて、刃を研ぐ時間なんかあるもんか。」

これは、「7つの習慣」というビジネス書の一節です。
なんとなく、今の世の中（学校教育 家庭教育）にあてはまりませんか。

ここでの「刃を研ぐ」というのは、2つの意味があると思います。

- ①少し立ち止まって、業務の見直しを図るということ。自分や周りの状況を振り返り、修正を加えていくこと
- ②自己研鑽・自己投資という意味

もしかしたら、今の大人は「刃を研ぐ」ことが疎かになっているのかもしれませんが。
(でも、子供には一生懸命「刃を研ぐ」ことを要求しています。)